

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

乗務員による車イス取扱い・ 鴨川^{運輸区}「柔軟な出勤場所」団交

業務融合化・4千人削減に反対の声を



【乗務員による車イス取扱い】

○施策の目的

駅員が対応できる駅・時間でないと利用できなかった。乗務員の対応で乗客の選択肢が増える。

○対応について

ワンマンの場合、運転士しか対応できない。ツーマンの場合は運転士・車掌のどちらでも対応できる。両方で対応するケースもありうる。

○利用実績は？

6月1日から実施で現時点の取扱実績はゼロ。

【鴨川運輸区「柔軟な出勤場所」】

○「その他時間」設定について

車掌予備改札801行路は茂原駅で、運転士8211行路は出勤後の乗り出しまでの時間が「その他時間」となる。駅での案内や委員会、企画業務をやってもらう。

○対象は希望者のみ

運転士の希望者は8211行路、希望しなければ211行路を指定する。車掌は予備改札行路なので希望者にだけ801行路を指定する。

○「その他時間」が前提の施策

通勤時間は主眼ではない。そもそもこの施策は、「その他時間」で企画業務などに取り組むことが大前提で、その時間を確保するためだ。

動労千葉は6月27日、乗務員による車イス対応と、「柔軟な働き方」と称する鴨川運輸区における出勤場所変更について千葉支社との団交を行いました。

「その他時間が大前提」

団交において会社は、鴨川運輸区での出勤場所の変更について「出勤時間の問題ではなくその他時間で企画業務などに取り組むことが大前提」と回答しました。

乗務員による車椅子対応についても、会社が進めた駅の要員削減・無人化・全面外注化の矛盾を押し付けているだけです。

乗務員を「片手間扱い」するな

JRは「鉄道持つIT企業」「鉄道部門4千人削減」を掲げています。業務時間の2割を普段とは違う仕事にあてる「20%ルール」も導入したとしています。

乗務員に対しては業務融合化・統括センタ-化、兼務化、行路内への「その他時間」設定、ジョブ^{ジョブ}ローテーション・強制配転などの攻撃がかけられています。鉄道業務の中心をなす職種である乗務員の仕事を「片手間」扱いするな。絶対に許せません。制度廃止・撤回へ、職場から「反対」の声をあげよう。